４．　平成30年度厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業（精神障害分野））
「重度かつ慢性の精神障害者に対する包括的支援に関する政策研究-クロザピン使用指針研究（Ｈ２９-精神-一般-００５）」分担研究報告書

クロザピン治療の地域連携体制に関する岡山県を中心とした好事例の調査研究

分　担　研　究　者　　矢田　勇慈　　岡山県精神科医療センター　精神科医師

研究要旨

岡山県はCLZ処方割合の高い地域であったが、CLZ導入初期の副作用の不安などから施設間でのばらつきは大きかった。岡山大学病院、慈圭病院、当院をCLZ導入病院として拠点化し、スムーズな地域連携を行うことで、より多くの患者にCLZを提供できるようなシステムを整備していた。

CLZ普及阻害要因の一つは、導入期に集中するCLZの副作用への不安であることは言うまでもない。血液内科以外にも、心筋炎や胸膜炎など、緊急での身体科連携が必要となることも少なくない。導入に不安のある施設が経験豊富な施設に導入を依頼できるよう、難治性精神疾患地域連携体制整備事業などにより都道府県ごとの実情に合わせたネットワーク作りを行うことが有用であろう。

A．研究目的

本研究は、精神障害者が入院生活から地域生活に円滑に移行できるようにするために、治療抵抗性統合失調症の治療薬であるクロザピン（CLZ）の地域連携体制に関する実態把握を行い、その指針を提示することを目的とする。

B．研究方法

岡山県精神科医療センター（以下当院）は岡山県における CLZ 治療の中心となっており、好事例病院と考えられる。当院での CLZ 治療の臨床経験や臨床研究をベースにして、多職種とのヒアリング調査、各医療機関との会議などでの議論を踏まえて、当院および岡山県での CLZ 治療についての現状分析を行う。

（倫理面への配慮）

重度かつ慢性の精神障害者に対する包括的支援に関する政策研究-クロザピン使用指針研究は、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に基づき、倫理面の適切な配慮を行い実施するものである。本研究は介入を伴わない観察研究であり、調査対象者の個人情報は収集しない。調査にあたっては、調査対象者の人権に十分な配慮した研究計画書を作成し、当院倫理委員会に申請し、承認を得て研究を実施している。

C．結果

１．当院における CLZ 治療の現状

当院は平成21年11月にCPMS（Clozaril Patient Monitoring Service）登録医療機関となり現在 CPMS 登録数 254 名（平成31年3月末時点）であった。全252床、6入院棟全てにおいて CLZ 使用が可能な体

制が整備されていた。

CLZ 副作用対策として、独自の「CLZ 副作用モニタリング 5 項目」などを設定し、不慣れなスタッフでも迅速な副作用対応ができるようにシステム化されていた。

平成 28 年より、「高速液体クロマトグラフィによる血漿中クロザピン濃度および血漿中ノルクロザピン濃度測定」に関する臨床研究を行っており、岡山県内のみならず、全国医療観察法入院棟における CLZ 最適使用に貢献している。

また、病院ホームページ上で CLZ に関するさまざまな情報を公開しており、全国の医療機関向けに有効性に関するデータや副作用のマネジメント方法、クリティカルパス、患者説明用資料などがダウンロードできる仕組みを整えている。

また、岡山県内で CLZ の使用経験の少ない病院からの依頼に応じて研修会を開催するなどして、地域の CLZ 治療の均質化に努めている。

実際の CLZ 患者紹介に関しては、地域連携室に相談窓口を設置しており、患者紹介・逆紹介がスムーズに行えるように整備されている。

２．岡山県における CLZ 治療の現状

CPMS 登録数 414 名（平成 31 年 3 月末時点）と全国でも多い地域となっていた。平成 26 年時点で CPMS 登録施設は 8 施設であったが、平成 31 年 3 月末で 12 施設と増設された。CPMS 施設登録の新設に際しては、臨床経験の豊富な岡山県精神科医療センターが中心となって講師の派遣や見学の受け入れを行うなどして体制を整えていた。

３．岡山県難治性精神疾患地域連携体制整備事業の活用

岡山県は平成 26 年より、厚生労働省の難治性精神疾患地域連携体制整備事業のモデル地域に選ばれ、事業事務局を当院に置いている。年 2 回程度の CLZ 研究会を開催し相互研鑽を行っている。平成 27 年よりインターネット上の登録制コミュニケーションサイト「サイボウズ Live」に岡山県内の多くの精神科医療機関が参加しており、「CLZ に関する研究会」、「CLZ 講義資料」、「CLZ クリティカルパス資材」などが情報共有されるシステムとなっている。患者・家族向けの CLZ 説明パンフレットを作成し、県内すべての精神科医療機関と行政機関に配布するなど啓蒙を行っている。平成 31 年以降は、「サイボウズ Live」のサポート終了となるため、同社の「kintone」へと移行し、さらなる情報インフラのためのネットワークを構築する方針を打ち出していた。

平成 29 年より岡山大学病院、慈圭病院、岡山県精神科医療センターの 3 施設を CLZ 導入病院と位置付け、CLZ 導入期の副作用に安全に対応できるような体制を整備していた。つまり、岡山県内で CLZ 導入が必要なケースは、CLZ 導入病院に患者を転院させ、導入期を安全に乗り越えた後に、紹介元病院へ再度逆紹介とする地域連携体制を整備していた。

D．考察

岡山県は CLZ 処方割合の高い地域であったが、CLZ 導入初期の副作用の不安などから施設間でのばらつきは大きかった。岡山大学病院、慈圭病院、当院を CLZ 導入病院として拠点化し、スムーズな地域連携を行うことで、より多くの患者に CLZ を提供できるようなシステムを整備していた。

E．結論

CLZ 普及阻害要因の一つは、導入期に集

中する CLZ の副作用への不安であることは言うまでもない。血液内科以外にも、心筋炎や胸膜炎など、緊急での身体科連携が必要となることも少なくない。導入に不安のある施設が経験豊富な施設に導入を依頼できるよう、都道府県ごとの実情に合わせたネットワーク作りが急務である。

F．健康危険情報　なし

G．研究発表　なし

1．論文発表

2．学会発表

H．知的財産権の出願・登録状況　なし